

「父へ」

石塚 早苗（北海道紋別郡湧別町／女性）

「お父ちゃん」、「お父さん」、「じいちゃん」。貴方の呼び名はそう変わって来ましたね。私の二人の息子たちが「じいちゃん」、「ばあちゃん」と呼べるようになってからは、娘の私までが「じいちゃん」と呼ぶようになり、すっかりそれが定着してしまいました。

さて、早いもので、先月2月に貴方の三回忌を済ませましたよ。74歳で水産加工場の作業を畳み、母と二人で穏やかな老後を通り越して約10年……。2009年秋、突然の意識不明で救急車で病院へ。呼吸器障害CO₂ナルコーシス。初めて聞く病名にただ驚くだけ。あれよあれよという間に気管切開、そして胃ろう造成……。それでも半年の入院の後、人工呼吸器も不要で、自宅に戻ることができました。自分の声を出したくて頑張ったけれど、私には口の動きで充分に伝わってきましたよ。

痰の吸引は母や姉より私が上手だと云ってくれてありがとう。トイレの介助、ベッドから居間への移動等、一つ一つ介助が必要なことにストレスが溜まっていたでしょうね。肌の弱い貴方は、毎日のカニューレのガーゼ交換も辛かったね。そして、一番嫌だった一週間に一度の入浴……。苦しかったんだね……。可能な限り素早く気管に水が入らないよう、そして清潔にと、私、あれでも頑張ったんだよ。

少しでも筋力が落ちないように、「ガンバレ」と接して来たけれど……。介護に悔いは無いけれど……。母と姉と交替しながら24時間体制で介護できた私達家族は幸せだったけれど（自由にやらせてくれた夫たちには感謝だね）。……。それでも、その9か月後にあんなにあっけなく逝ってしまったのなら、「ガンバレ」なんて云わなきゃよかった、もっと優しく甘えさせてあげればよかった……。と貴方を火葬場で見送った私は号泣してしまいました。50も半ばになるのに、私はファザコンだったのだなあと今更ながら実感。

淋しいです。
恋しいです。

何度か夢に出て来てくれる貴方は、元気なままで……。そんな日は一人で暮らす母の様子を見がてら、仏壇の前で少し長く手を合わせる私です。

貴方がそちらの世界に行ってからは、親しい人たちが次々と逝ってしまい、そちらは賑やかになったでしょうね。どなたも戻って来ないようで、すいぶん良い所なのでしょうね（笑）

貴方が愛して、そして心配してやまない母は、相変わらず泣き虫です。でも、やっと元気になんとかやってきてます。そちらに行くのはもう少し遅くなりますが、我慢してくださいね。

そして、最後に、来世でもまた「じいちゃん」と「ばあちゃん」の娘に生まれたいので、宜しくね。